



在京古高同窓会会報 第46号

〒352-0031 新座市西堀2-17-37 在京古高同窓会事務局

TEL・FAX (042) 494-1598 URL http://www1.ttcn.ne.jp/~furuko Email skyoji@jcom.home.ne.jp

発行責任: 曾根 研一 編集長: 亀井 明 印刷: (株)ケーヨー

新年のご挨拶

会長 高橋 俊裕



在京古高同窓会の皆様あけましておめでとうございませう。

昨年(実はこの原稿を書いている時点では、北朝鮮の韓国への発砲事件や、国会の混乱など年末に向かつて何やら怪しげな気配もあり、筆をすずめることにためらいがあるのですが)一昨年の乱調な気候の中で、ふと気がつけば冬到来という、四季のある日本、からはかけ離れた1年でしたが、皆様におかれましては、清々しい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、民主党政権も2人目の総理大臣を出しましたが、政治も経済も混乱となるばかりです。その場凌ぎの言逃れ、口封じ、責任回避、何ともだらしな政治家達にこれからの日本を託しても大丈夫でしょうか。翻って考えてみれば、こんな政治家を生み出したのは私達国民にも責任があります。目先の利益、耳に快い言葉に一喜一憂して、清き一票を投じてきた私達の数も曇っていたと

云わざるを得ません。この国のあり方に確たる考えを持ち、国民に夢を与え、それを実現するべくリーダーシップを発揮してくれる人が望まれます。

私事に亘りますが、或る政治家を育成すべく40才前後の若手の実業家の20名程集めて、勉強会を立ち上げました。2020年の会名を名づけて、10年後の日本のありようを考えていきたいと思っています。

さて、本同窓会はこの半年の活動であります。昨年6月26日メルパルク東京で総会を開催いたしました。役員改選期でありましたが、全員留任となりました。

バイオリニストの工藤春彦さん(S47)の演奏と、日本の歌についてのお話で懇親会を盛り上げていただきました。猛暑のせいでしょうか、出席予定者のうち9名が当日欠席、60名の参加にとどまったのがいささか残念でした。

また、8月7日は大崎市に於いて、同窓会創立100周年の記念総会が開催され、在京からも7名が参加いたしました。さとう宗幸氏(S42)の歌と語りで大いに盛り上がりました。

10月23日は江戸・東京を楽しむ会が21名の参加者を得て(古高元校長の高橋健三さん他4名の方が宮城県から参加)、両国を中心に歴史散策。最後は屋形船での東京見物(景色よりも大宴会)と役員の相互交流が大

いに図れたと思います。さて、在京同窓会にとつてやや懸りな件が出て来て参りました。昨年9月22日現在での会費納入者は258名と前年同期比88%、36名の減となっております。

この中味を精査しますと、在京同窓会を退会した方も含めて、同窓会本部へ会費を納入し、在京に未納の方が57名にもなりました。会費問題は本部が会費徴収を決定した段階から想定されてきたものですが、会員の皆様には今一度在京同窓会の活動が本部の活動と別個に行われていることをご認識いただきたいと思えます。

在京同窓会の年会費のほとんどは会報、堂雪の作成(印刷代)と会員への送料にあてられています。原稿料の支払いもありませんし、封筒詰め、発送は幹事役員のボランティアで行われています。

印刷等の発行費用が横這いの中、会費収入が減少している事は、同窓会収支は赤字構造になっているのです。会費一元化という要望もいただいておりますが、本部に一元化するとなれば、堂雪の発行はやめざるを得ず、それは在京同窓会の解体にもつながります。

この辺りのことについて、皆様のいつそうのご理解をお願いするとともに会費納入にご協力をお願いする次第です。

終わりになりましたが、来る1月29日(土)は恒例の旧古川市内四校合同新年会が上野精養軒で開催されますので、多くの皆様のご参加をお願いいたします。それでは本年も皆様に幸多からんことをお祈りして新春のご挨拶とします。

年頭のご挨拶

古川高等学校校長

佐々城 洋



新年明けましておめでとうございませう。在京古高同窓会の皆様にはお健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中に賜りましたご厚情に対し改めて深く感謝申し上げます。

さて、老朽化した「普通教室棟」の改築については前号でお知らせいたしました。10月に設計業者が決定し、県教委施設整備課・県土木部管轄課・業者との打ち合わせを重ねているところであります。

新校舎はこれまでの3階建てから4階建てになる見込みですが、現在は新校舎建設中に生徒の教室となる仮設校舎の計画の段階です。

来年度後半に仮設校舎建設、24・25年度に現校舎の解体・新校舎建設、26年度から供用開始となる予定です。長期の工事となりますが、生徒の学習、部活動をはじめ、可能な限り教育活動に支障を来すことのないように進めてまいりたいと考えております。

また、本県では現1年生の入学によつて順次進められてきた男女共学化が完成するとともに、高校入学者選抜においては全県一学区制が導入されました。

児童・生徒数の減少に加えて他地区への出願の増加も懸念されるところであり、大崎地区の各高校では入学生の確保が大きな問題となっております。古川黎明高(旧古川女)、古川学園高(旧古川商)に中学校が併設されたことも本校にとっては見逃せない要素であります。

このような状況の下で今年も高校入試の時期を迎えるわけですが、11月初旬には第1回目の予備調査が実施されました。本校の志願倍率は240名の定員に対して1・24倍となり、昨年度同調査の1・24倍を0・7ポイント上回ることでできました。

文武両道を掲げ、バランスのとれた人材育成を目指す古高の校風と着実に成果を上げている大学進学実績が評価されたものと受け止めております。

1月末に第2回目の予備調査及び推薦入試、3月には一般入試が実施されますが、多くの意欲ある中学生が古高合格に挑戦してくれることを期待したいと思います。

県教育委員会は現在、小・中・高を通じた「志教育」を推進しておりますが、本校では夙に「誇り・品位・志ある古高生」の育成を高く掲げて、次代を担う人材の育成に努めてまいりました。

今後も地域の俊秀が集い、「志」の実現に向けて切磋琢磨する学校づくりの推進に所存でございます。同窓の皆様には今後とも母校古高へのご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、在京古高同窓会の益々のご発展と会員の皆様の一層のご活躍、ご健康をお祈り申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

本部同窓会事務局だより

新年のご挨拶

古川高校同窓会
会長 渡邊 義之



在京同窓会の皆様、新年明けましておめでとうございます。今年も皆様方にとりまして素晴らしい年になりますよう念願しております。また皆様方には常日頃、同窓会活動に対し格別のご厚意を賜り、衷心より謝意を申し上げます。在京同窓会が高橋会長さんを中心に特色ある諸活動を展開され、在京同窓会の皆様方が各界の第一人者として目を見張るような活躍をしておりますことに対し、深甚なる敬意を表する次第であります。

さて、皆様ご承知の通り、昨年は古川高校同窓会発足100周年の記念すべき節目の年でしたので、昨年の総会は発足100周年を祝う「冠総会」として、記念講演は「青葉城恋唄」で一世を風靡した歌手の「さとう宗幸氏」(高19回)を特別講師としてお招きし、同窓生250余名の参加のもと8月7日に盛会裏に開催することができました。当日は高橋会長さん、曾根・春田の両副会長さん、そし

て佐々木事務局長さんにご臨席を賜り、改めまして御礼を申し上げます。

今年と同窓会発足101年目になりますが、100周年の重みを同窓会活動の礎とし、諸先輩の今日までのご尽力を糧とし、同窓会活動の一層の活性化に努めて参る所存であります。その為に我々の精神的支柱である「蛍雪の志」を堅持し、一層蛍雪の絆が強まるような広報活動をして行くつもりでございますので、在京の皆様方には従前同様のご指導・ご叱責・ご協力をお願い致します。

終わりに、在京古高同窓会の益々のご発展と、皆様方のご健勝をお祈り申し上げ新年のご挨拶といたします。

近況報告

事務局長 大山 義男



本年度、古川高校同窓会は創立100周年を迎える記念すべき年となりました。本部総会は8月7日(土)に地元大崎市の芙蓉閣にて行われ、250名を超える多くの参加者を迎え、盛会の内に終えることができました。

在京同窓会からも会長高橋俊裕様を始め、副会長の春田紘輔様、同副会長の曾根研一様他、多くの在京会員の方々にもご参加頂き、

誠にありがとうございました。写真。



総会終了後100周年記念行事として、各支部長として10年以上同窓会にご尽力頂いた支部会長に感謝状と記念品を贈呈いたしました。

今回の表彰受賞者は、三本支部長の伊藤市男様、元岩出山支部長の野村喜太郎様、松島支部長の佐藤恒夫様、色麻支部長の佐々木由貴様、田尻支部長の平野一郎様です。

その後100周年記念行事として母校への助成金の贈呈が行われました。これは、本部特別会計から30万円を吹奏楽部楽器購入のために補助しようというものです。が、昨年度(30万円)と今年度(30万円)の一般会計からの助成金に今回の30万円を加え、総額90万円として、楽器購入費に充ててもらおうと昨年度から計画を進めていたものです。既に、バストロンポーンとチューバを購入し、日々の活動に使用しております。本年度の記念講演は、歌手で地元ミヤギテレビのパーソナリティを務めている「さとう宗幸」氏

(S42・高19回)写真左にお願いし、「ふれあいの時をもとめて」という題でお話しを頂きました。



さとう宗幸氏が音楽の道に進むことになった契機や、高校時代の思い出など、「青葉城恋歌」がでるまでのエピソードなどを踏まえながら、それぞれの人生の場面での人との出会いについて語って頂きました。

また、講演の中では「岩尾別旅情」の他3曲程歌の披露もあり、その美声で会場に来ていた会員の皆様を魅了されておりました。

その後開かれた懇親会では高26回の当番幹事の方々による進行のもと、さとう宗幸氏も交えての賑やかな懇親会となりました。会員諸氏の久々の再会や旧交を深める場として大いに賑わい、話は尽きることがありませんでした。

さて、本年度の各支部の総会は5月に美里支部、6月に在京同窓会、8月に岩出山支部、色麻支部、10月に加美支部、11月には県庁古高同窓会、高校教職員蛍雪会、12月に関西蛍雪会と多くの支部で開かれております。

他にも、10月に行われた在京、在仙・本部合同企画になります「江戸・東京を楽しむ会」には各支部から多くの方々に参加して頂き、支部の枠を超えての交流を持ったこと大変感謝しております。また、企画運営をして頂きました在京同窓会副会長門脇健様には感謝申し上げます。

付け加えて本年は、同窓会100周年記念行事として、同窓会名簿作成を行っております。平成23年6月末日発行予定で、(株)サラトに業務委託しております。現在名簿購入の御願いと協賛金ご協力のお願いの通知が届いているかと存じますが、何卒同窓生相互の絆を深めるためと、会員各位の交流のためにも、どうぞご協力願いますよう御願ひ申しあげます。

平成22年度 総会報告

平成22年度 定時総会開催

平成22年度の定時総会は6月26日(土)、今回も芝公園の「メルク東京」で開催いたしました。総会の司会は、笠間邦彦幹事(46年卒)が初めての担当。高橋会長の挨拶のあと議長は5年連続で上野正司幹事(S39年卒)が務め、次の5つの案件が審議・可決されました。

〔第1号議案〕

平成21年度活動報告承認の件

〔第2号議案〕

平成21年度決算報告承認及び監査報告の件

〔第3号議案〕

平成22年度活動計画承認の件

〔第4号議案〕

平成22年度予算案承認の件

〔第5号議案〕

役員選任案(2年任期、議案説明) 春田副会長 ※いづれも再任

会長

高橋 俊裕(S33年卒)

副会長

門脇 健(S24年卒)

事務局長

春田 紘輔(S27年卒)

編集長

曾根 研一(S30年卒)

監事

大友 正行(S33年卒)

〃

佐々木恭次(S38年卒)

〃

亀井 明(S55年卒)

〃

谷地森 税(S26年卒)

〃

児玉 隆行(S36年卒)

議案審議のあと、渡邊同窓会会

長と佐々城校長にご挨拶を、そして伊藤大崎市長のメッセージを松ヶ根根光交流課長(S51卒)が代読し、公演(演奏)の部に移りました。

前回から「講演」を「公演」(演奏)に換えましたので、今回は「NHK歌謡コンサート」にレギュラー出演しているオーケストラ(東京放送管弦楽団)のコンサート・マスターを務めている、ヴァイオリンの工藤春彦さん(S47卒・中新田出身)に写真をゲストにお迎えしました。



前半は「ユーモレスク」(ドボルザーク)、「夢のあとに」(フォールレ)、タイスの瞑想曲(マスネ)などの名曲と、後半は「早春譜」

「おぼろ月夜」「宵待草」「浜辺のうた」「浜千鳥」などの大正期の名歌・愛唱歌を、お話を交えながら演奏。そして最後の曲「箱根八里」では、全員の斉唱が加わって演奏を締めくくりました。

工藤さんは、古高の吹奏楽部ではホルンを担当、しかし進学した

国立音楽大学ではホルンからヴァイオリン専攻に転科して卒業後、プロの世界に入りました。

大学入学後、管楽器から弦楽器に転向する人というのは、これまで聞いたことがありません。きっと、幼い頃からヴァイオリンにも親しんでいたのでしょう。

ヴァイオリニストは、都会出身の人が多くこれまで思っておりましたが、大崎耕土を背にしても育つものだと、認識を改めさせられました。

古高からは実に多くの音楽家が出ておりますが、ヴァイオリニストが世に出るとは、思ってもみませんでした。

工藤さんは、前月に実母を失くされましたが、ふるさとに向けての深い思いも込めて、演奏してくださったのだと思います。

毎週火曜日に生放送の「NHK歌謡コンサート」ではフルバンドの後ろ、画面に向かっていちばん左側で演奏しております。

テレビの生放送よりも、多くの先輩達の前で演奏する方が緊張の度合いが高かったそうですが、演奏の合間には、「NHK紅白」の裏話等も交え、音楽の豊かさ奥深さが伝わってくる楽しいミニトークコンサートでした。

このあと宴会場に移り、高橋昭典氏(S20卒)の乾杯の音頭で懇親会が行われました。

皆さん、加齢からの贈り物は、ますます増えてくるばかりですが、目の輝きと口の動きは少しも衰えず、賑やかな楽しい雰囲気の中で、昔話や近況を語り合いました。(文責 曾根)

平成22年度 定時総会出席者名簿(敬称略)

Table listing attendees of the 2010 general meeting, including names, graduation years, and affiliations. The list is organized into sections for guests and members.

Advertisement for 佐藤 啓三 (S40年卒 中新田), listing his professional roles such as ISO quality manager and energy manager, along with contact information.

Advertisement for 長井内科 (Nagai Internal Medicine), featuring a photo of the clinic building and listing the doctor 長井 弘策, his qualifications, and contact details.

<第1号議案> 平成21年度 活動報告

平成21年4月1日～平成22年3月31日

<第3号議案> 平成22年度 活動計画案

平成22年4月1日～平成23年3月31日

年月日	活動内容	場所
平成21年 5月30日(土) 7月3日(土)	会報「蛭雪43号」と総会案内発送(会員760名) 定時総会、懇親会 アコーディオン演奏 鈴木芳郎氏(S27卒)	信陵会館 メルパルク東京
8月8日(土)	本部同窓会総会出席(高橋会長、門脇・曾根副会長)	大崎市「芙蓉閣」
11月12日(木)	「ふるさと探訪ツアー」	大崎市
11月13日(金)	〃(本部10名、在仙1名、在京14+同伴者2名、計27名出席)	
12月19日(土)	会報「蛭雪44号」及び四校合同新年会案内の発送(会員746名)	信陵会館
平成22年 1月31日(土)	「第17回 旧古川市内四校関東同窓会 新年の集い」開催 (幹事校・古工) (古高 76名、黎明 73名、古工 52名、古学 36名 四校来賓 4名、計241名出席)	上野精養軒
3月1日(日)	「東京蛭雪賞」授与、並びに古高卒業式出席(高橋会長)	古川高校

◎役員・幹事会：信陵会館
 第1回 H.21年4月30日(土) 17名(総会運営他)
 第2回 H.21年19月26日(土) 13名
 (在京・本部総会報告、44号会報発行内容他)
 第3回 H.21年12月19日(土) 15名
 「ふるさと探訪ツアー」報告、四校新年会準備他)
 第4回 H.22年13月20日(土) 14名
 (四校新年会報告、定時総会準備他)

◎四校合同幹事会：東京文化会館会議室他
 第1回 H.21年10月22日(木)
 第2回 H.21年12月14日(金)
 第3回 H.22年1月22日(金)
 第4回 H.22年2月27日(土)
 古高出席者：春田 曾根 岩崎 佐々木(恭)

年月日	活動内容	場所
平成22年 5月22日(土)	会報「蛭雪45号」と総会案内発送(会員730名)	信陵会館
6月26日(土)	定時総会、懇親会 演奏とお話 工藤春彦氏(S47年卒・ヴァイオリニスト)	メルパルク東京
8月7日(土)	本部同窓会総会出席	大崎市「芙蓉閣」
10月23日(土)	会員交流会「江戸・東京を楽しむ会2010」 両国界隈と屋形船による周遊	東京両国界隈 ～隅田川
12月18日(土)	会報「蛭雪46号」及び四校合同新年会案内の発送	信陵会館
平成23年 1月29日(土)	「第18回四校合同新年会」開催 (幹事校・古川学園高校同窓会関東支部)	上野精養軒
3月1日(月)	「東京蛭雪賞」授与、並びに古高卒業式出席	古川高校

◎役員・幹事会：
 定例は年間4回、その他必要事案により関係役員・幹事会を開催
 第1回定例5月22日開催：総会運営他
 第2回定例10月2日開催予定：総会報告他

◎四校合同幹事会：
 四校合同新年会(H23.1.29)にむけて、10月下旬から1月
 中旬までの間に3～4回開催する。
 古高出席者：春田 曾根 岩崎 佐々木(恭)

第2・4号議案 平成21年度決算／平成22年度予算

収入の部

科目	H21年度決算額	摘要	H22年度予算額
年会費	740,000	327名 370口	740,000
広告料	140,000	企業・個人広告	100,000
寄付・祝儀金	34,800	個人寄付	30,000
雑収入	140,029	総会、四校新年会剰余金他	30,000
収入計	1,054,829		900,000
前期繰越金	2,162,950		2,120,935
合計	3,217,779		3,020,935

支出の部

科目	金額	摘要	金額
会議費	125,715	役員・幹事会資料代他	140,000
印刷費	494,200	会報、案内状、封筒他	500,000
事務用品費	12,818	文具代他	15,000
事務所経費	59,000	信陵会館年間契約料他	60,000
通信費	192,342	電話、はがき、切手代他	200,000
慶弔費	88,750	東京蛭雪賞、香典他	100,000
旅費交通費	86,420	電話、はがき、切手代他	120,000
活動強化費	0		30,000
雑費	37,599	年会費振込手数料他	40,000
支出計	1,096,844		1,205,000
次期繰越金	2,120,935		1,815,935
合計	3,217,779		3,020,935

貸ビル、貸マンション業

株式会社 佐々木商事 代表取締役
 株式会社 アクアベンドジャパン 代表取締役副社長

佐々木 光一路(昭和33年卒)

〒144 東京都大田区南蒲田1-1-21 佐々木ビル
 -0035 第一京浜国道沿い京急蒲田駅前
 電話 (3739) 2468
 F A X (3732) 7700
 HOT Line 090-3202-6393

東京、神奈川、埼玉でお仕事をお探しの方、人材をお探しの企業様!!
 人材派遣・人材紹介・人材育成の「パルスタッフグループ」にお任せ下さい。

 **パルスタッフ株式会社**

厚生労働大臣認可・人材派遣業(一般13-300435)

代表取締役 渡邊 道雄
 会長

S28年卒(鹿島台町)

本社 〒166-0002 東京都杉並区高円寺北2-4-5

ロータリービル6F

TEL 03-5364-5251 FAX 03-3330-7585

東京営業部(03-5364-5251) 神奈川営業部(0462-77-0791)

E-mail: mi.watanabe@palsbk.co.jp

http://www.palsbk.co.jp

会員による自由投稿

第5回リサイタル
魅惑のテノール
「上野タダシ
イタリアを歌う」を終えて

昭和39年卒 上野 正司

去る10月26日、最早恒例となりつつあるカンツォーネの音楽会を催しました。当日は200人を超える人が来て下さり、大変な盛況でした。

その中には在京同窓会の春田副会長夫妻、谷地森監査役、佐藤廣元事務局長、千坂先輩の姿が見え、千坂さんは自分が主催する男の料理教室の1個連隊を率いて来てくれました。

そもそもなぜ私が、このような大それた事をやろうとしたのか、それは5年前、ある「カンツォーネの音楽会」を聞きに行つた夏の日のこと、そのあまりのヘタさにカッと来た私は「これは自分がやらなければ」と即会場を申し込んだ次第です。

私のカンツォーネ好きは小学校の頃からで、ラジオから流れてくるテノールの歌声に魅了されました。中学・高校と、自宅と中山平駅の間を夏の日も吹雪の日にも、声を張り上げてカンツォーネを歌って歩いたものでした。

高校1年の時、音楽の庄司芳武先生に会った。先生は「今日一日で君達の声を一変させてやる」と言った。それは「息を吸

う時は腹を風船のようにふくらませ、次の瞬間、腹を鉄板のように硬くして息を押し出す」というものであった。私は熱心にこれに取り組み、3年位で無意識に歌つてもベルカントの手法ができるようになった。母校と庄司先生への感謝は尽きない。

古高は歌を一人ひとり歌うテストがあり、私は筆記試験も良かったので断トツの「5」であったと思う。

さて、リサイタルの中身であるが「帰れソレントへ」「サンタルチア」「オーソレミオ」の3本柱を始め、「マンマ」「忘れな草」「アルデイラ」「ナポリは恋人」「カタリー」等、カンツォーネの珠玉の名曲を次々と歌うのである。

賛助出演に武蔵野音大出身のソプラノ歌手を頼み、この人はプッチーニを高らかに歌った。またピアノは同じ音大出身の女性で、フェルマータのところなど歌手の顔を見ながら見事に合わせてくれた。

2人共スラッとした美人なので「なぜ上野があのような人達を見つけたのか」と不思議がる声もつばらだった。

「皆さんで歌いましょう」のところでは、「サンタルチア」など原語で歌い、非常に盛り上がった。それもその筈で前回から「地域新聞」に広告を載せてもらい、習志野市近隣のカンツォーネ好きな人達に集まってもらう事に成功しました。だから皆さんがイタリア語で大声で歌つても不思議はないのです。

終盤になると「ブラボー」「アンコール」の声ひきもきかず、「フニクリフニクラ」を歌つてやつと終わりました。市長、副市長から祝電も来て、翌日はファンコールを沢山いただいたのであります。

曰く「習志野市にこんな素晴らしいカンツォーネ歌手が居るとは思いませんでした」「カンツォーネには尽きせぬ明るさがあり、ロマンがあり、希望があり、夢があります」「1曲毎にイタリアに行つた時のなつかしい風景が浮かんで参りました、どうかこれからも素晴らしい歌声をお聞かせ下さい」等々です。

私もお世話になった皆様への恩返しに、声の続くかぎり歌って行きたいと思っております。



「在京と本部の会費納入の重複について」

会員の皆様から寄せられた質問の中で一番多かった、在京古高同窓会の会費と古川高校同窓会（以下、本部同窓会と呼ぶ）の会費との関係につきまして、この場をお借りして整理してお伝えしたいと思います。

まず在京古高同窓会と本部同窓会の関係ですが、在京古高同窓会は本部同窓会に從属する支部という関係ではなく、基本的に独立した存在です。このことは在京古高同窓会の会則と本部同窓会の会則とは全く別であり、その関係が本部、支部の関係と規定されていないことから明らかです。

また、財務基盤に関しては、在京古高同窓会は会員からの自主的な会費納入による独立運営が古くから行われており、本部同窓会とは財務的には全く独立しております。これに対し、本部同窓会の財務基盤は、数年前まで「現役在校生全員」に対する事実上の強制徴収に頼っており、卒業生・OBから会費は募っていませんでした。

しかしながら、卒業生の減少による納入金額の減少が顕在化し、運営に支障をきたす恐れが生じたことから、財務基盤を「在校生からの強制徴収」から「OBからの会費徴収」に抜本的な変更が行われました。これは本部同窓会の財務基盤がOBからの会費納入という正常な姿になったという点で画期的な変革でした。

ただ、この際、先行して会員からの会費で運営が行われ、それが

定着していた在京古高同窓会との関係についての整理については充分とはいえなかったきらいがありました。これが在京古高同窓会の会費と本部同窓会の会費納入の案内が輻輳している理由です。

ご存知のとおり、在京古高同窓会が年2回発行する会報「蛍雪」は今回で46号の発行を数え、20年以上に渡って継続して会員の皆様へ直接お届けしております。会報作成にあたっては、進んだ編集態勢をとっております。イベントとしましては、長らく年次総会を継続して開催しており、本部にはない旧古川市内4校の合同の新年会の開催は今回で18回目を数え、安定した活動が定着しております。

会員情報管理に関しては、約10年前より外注を使わず全て自前で実行できる態勢を整えております。具体的には、会費納入、総会等のイベント出席、「蛍雪」送付記録、案内に対する返答の有無等に関して一元的な管理が電子的に行われており、現代的な情報管理態勢となっております。また資金管理に関しては、現役税理士・企業の監査役を監事に配し、運営管理態勢はしっかりしたものとなっております。

このように在京古高同窓会は、意識の高い在京会員の皆様の理解と協力のおかげで、質の高い活動の歴史を積み重ねてきました。

この場では、「どちらに会費を取めるのが正しいか」という議論ではなく、あくまで別の組織であることをご理解いただいた上で、在京古高同窓会の会員の皆様には引き続きご理解とご協力をお願いする次第です。（文責 亀井）

『江戸・東京を
楽しむ会2010』

「江戸・東京を楽しむ会
2010」に参加して

昭30年卒 高橋 健三

前々回の荒雄川水系、前回の鳴瀬川水系を基軸にした「ふるさと探訪ツアー」も回を重ね、今回は趣きを変えて都内の半日コースで、ふるさとから5名の参加者を得て総勢21名、10月23日（土）秋晴れの中、JR両国駅から半径500m内の古い歴史（震災慰霊堂、江戸東京博物館、回向院）を

巡りながら現代（スカイツリー・五重の塔の超建築物）とのコントラストの探訪でありました。

また隅田川の屋形船に遅れる人あり、歌うまい人、話し込む人、東京タワーの夜景に見入る人、年代を超えてワイワイ交友を深め、やはり同窓という絆を持つのはいいなあと思っただ次第です。次回も楽しい探訪を企画したいです。

（昭38佐々木恭次事務局）

参加者（敬称略）

- 〔本部〕 諸岡敏裕（昭46） 大山義男（昭56）
- 〔在仙〕 高橋健三（昭30） 堀越五郎（昭30） 荒谷正咲（昭38）
- 〔在京〕 門脇 健（昭24） 佐藤清勝（昭27） 春田紘輔（昭27）
- 門脇喜代志（昭30） 佐藤輝久（昭30） 曾根研一（昭30）
- 渡辺吉郎（昭30） 高橋俊裕（昭33） 同夫人
- 大友正行（昭33） 渡邊紘也（昭33） 千坂孝夫（昭37）
- 大曾根 昇（昭38） 佐々木恭次（昭38） 上野正司（昭39）
- 鈴木久一（昭46）



両国駅にてスタート

大正12年の関東大震災と、昭和20年の東京大空襲の霊を祭る慰霊堂に展示されている数々のものは、多少は知っておりましたが、

現実には自分の目で接するとまた、別な感情を持たされました。

江戸東京博物館では模型ではあるが、江戸城の歴史に残る長い松の廊下や、大奥に多数の姫達に囲まれて暮らす将軍様の寝室など、贅を凝らした建物は現代の仕分け人から、どんな判断をされたことだろうと考えさせられました。ただ、このような贅沢が世界史でも例を見ない、戦のない平和な3百年が続いたことを考えれば、安いものとも思った。

今回研修した、安田庭園・震災慰霊堂・江戸城（模型）など後世に残る建築物などは首都東京都だからこそ出来たもので、地方の自治体ではとうてい出来ないものだろう。

同窓生2万余名が全国各地で活躍またはリタイヤされて人生の後半を豊かに、何かと絆を求め、または頼って、集まっては飲み・語り、時代の変化を互いに認め合っていて、わが同窓会が成立していることを考えれば、今回のような楽しむ会も大変ありがたく、各地の名所史跡などを訪ねる楽しむ会が、今後も企画実行されることを希望して感想とします。

（第31代古高校長）

「江戸・東京を楽しむ会」
に参加して

昭30年卒 佐藤 輝久

数日前からぐずついていた天候も当日はすばらしい好天となりました。12時半に両国駅に集合し、門脇副会長の先導で秋の陽光を受けながら出発しました。

最初の相撲博物館は休館とのこ



安田公園にて

とでゲートを覗きながら通り過ぎた。旧安田庭園は漆喰仕上げの練堀で囲まれ、隅田川の水を引き入れたといわれる池を中心に配した緑豊かな庭でした。庭木の間から予期せぬ大きさを工事中のスカイツリーが現れ、思わず声を上げた。

大衆伝達の不可思議を知る思いであった。これからはお楽しみみの屋形船です。心地好い川風に吹かれながら両国橋に差しかかり「この界限は江戸一番の盛り場だったなんて信じられないなあ」など話しながら程なく浅草橋の船乗り場に着着です。ここで数名の待合せ組と合流して16時頃出港？夜景を楽しむには良い時間でした。屋形船は長さ12mほど、総勢20名で丁度という広さでした。

乾杯の声と共に賑やかな酒宴となり、自己紹介の頃には両国橋から勝鬨橋と下つてお台場付近であった。船上からのレインボーブリッジは薄暮に浮かんで幻想的でした。

船中ではカラオケが始まり、一方では龍馬時代の台場や浅草あたりの話で大いに盛り上がりつつあった。ことに門脇先輩は浅草芸者などの段になると実に楽しそうにお話になっていた。氏の若さの秘訣はこんな所にもあるんだなと一人悦に入った次第です。

酔い醒ましに窓を開けると、船は上流に向かっていて駒形橋近くだろうか、スカイツリーは巨大な影絵となり、現在450mで丁度展望台まで進んでいます。振り返ると東京タワーです。一段と鮮やかなオレンジ色が映えてきましたが、スカイツリーを眼前に悲しげにも見えました。

両岸の高層ビルの明かりも輝きを増す中、校歌を斉唱しながら思い出深い周遊の帰途につきました。

「江戸・東京を楽しむ会」

に寄せて

昭45年卒 鈴木 久一

(第一幕)

同級生の中新田在住の諸岡君の誘いに乗って初参加した。生来の出不精、江戸博物館、慰霊堂にも行ったことはないが、狙いは旧友と酒を酌み交わすことであった。

しかし東京慰霊堂では思いもかけない感慨を得た。私も高校を卒業して40年となる、58歳だ。人は年を重ねると共にもの見方感じ方が変わる。

若い時には得られないものだ。慰霊堂には関東大震災と先の大戦の東京大空襲で亡くなった方々の記録と慰霊碑がある。悲惨な亡くなり方をした多くの方々、特に子供たちの写真を見ていると強い感情が湧き出る。子供を持たなくては解らない感情。2年前「世界を百人の村だったら」と云う文章に出会った。衝撃的な統計数字であった。恵まれた我が身我が家族を思い、未だ貧しく悲惨な境遇の世界の人々を思った。その時の感情に酷似している。



慰霊堂前にて

(第二幕)

正直を云えば(大変失礼な事は承知で)これまで同窓会には興味なく「単なる懐古趣味の暇人の集まり」程度の認識であった。しかし今回の参加で見方が少し変わった。屋形舟で酒を酌み交わす先輩方の姿を見、遠慮ない大声の話を聞いているうちにこれまでの考えに変化が起きてきた。

自分の旧友や思い出に出会うことが出来る方々は、現在も過去も幸せだったと云うことの証なのである。古高と云う同じ郷里から出た者同士が、その後の自分の辿って来た道を確認できる場所、それが同窓会の存在意義なのかも知れない、屋形舟でほろ酔いながら、そんな事を感じていた。年と共に変わる事の一つである。

今、私の状況は土建屋2代目の現役で第4クォーター終盤、競馬で云えば観衆は居ないが自分が見守る最後の直線コースを走り抜けようとしているところ。誰との勝負でもないし、仕事現役のゴールが人生のゴールでもない。その後の道も長い事は承知だが現役でやれる事に自分でゴールの線を引く事も生来無精な私のやり方である。あそこまで行けるのか。

(第三幕)

屋形舟の解散後、やはり諸岡君の計らいで中新田の先輩であり古高の先輩である2人と池袋で飲んだ。10年ぶりであろうか。多感な古高時代に大きな影響を受けた2人。7年と9年も上の方である、たぶん。彼らは変わらず、40年前の青年のまま生きていた。或いは昔から老成していたのか。私も時と共に、多少姿形

は変わっても人生の核は古高での3年間である事を思い出していた。焼酎が旨かった。師岡君は先輩の自宅に泊まるという。

時として古い自分や友人と会う事も悪くない。同窓会とは55歳を過ぎてから参加するものだ。その前では本当の良さは解らない。

ツアー参加の理由

昭46年卒 諸岡 敏裕

家人が海外に出かける、私もどこかに出かけなくちゃとあせっていた時にツアーの情報が来ました。でも、彼女は飛行機で海外に、私は屋形船。このギャップに逡巡すること65日。決め手は「相撲博物館」でした。ただ前日は加美町支部の総会。飲み過ぎないように意志を堅くし、同級生を誘い10月23日待ちました。

本部事務局の大山先生と東京駅で遭遇し、両国駅へ。10年位前にもこの駅に降り立ったのに国技館の記憶がない。

さて、メンバーも揃ってツアー開始。メンバー中敬老割引にならないのは3人。相撲博物館は残念なことに本日休館。私の祖父の名は「嵐山寅雄」関。茨城県美浦村出身で大正時代は大阪相撲に所属した相撲取りだった。ちゃんまげ姿の肖像画とちゃんまげが今も形見に残っている。本場所では関脇、地方場所では大関だったらしい。祖父のその記録でもないかと考えていたが休館ではいたしかたない。さて、お次は安田公園。ついで有備館の池と比較してしまふ。公園に隣接して学生時代の大山先生が入院した病院がある。この病院が

名所旧跡となるかは先生次第。続いて復興記念館に。祖父母が関東大震災の時玉の井にいたと聞いた記憶があるが、家にその記録はない。

そして回向院とくればなぜか慰霊の旅という雰囲気もあるが、回向院では鼠小僧の墓所。墓石を懸命に削っている姿もあり、この墓石は何回も更新されているらしい。最近の鼠小僧は賽銭箱で稼いでいるようです。

メインの屋形船、水路が狭いためバックで隅田川に出て行く。スカイツリーは東京タワーより高くなったらしいけど、まだそうは見えない。



屋形船にて

料理も揺れも景色も、そして諸先輩の唄声にも満足した体験でした。おっと忘れていた江戸東京博物館。ここは息子と修学旅行をした時立ち寄った場所でした。

夜、池袋で中新田出身の同窓4名で宴会。翌朝、念のため再び両国へ行きました。翌日も相撲博物館は休館でした。祖父の件は宿題としてとっておきましょう。

東京に行くとき歩きます。2日間で3万歩を超えました。町に帰って歩きます・・・車でお世話になりました。

古高卓球部の歌

昭30年卒 横山 武

去る11月20日(土)に、螢雪卓球会(古高卓球部OB会)総会が古川駅前「三陸」で行われ、私も同期の仲間の佐藤(憲)・堀内君と出席した。

そこで、片瀬洋悦氏(高2回卒)が昭和60年に作詞した「古高卓球部の歌」の歌詞を記し、自ら作った立派な額を披露され、片瀬・角田両顧問の先輩から、この額を11月12日に母校に寄贈し、第2体育館の階段の踊り場に掲げる報告をされました。

その後、CDを聞きながら皆で初めて卓球部の歌を元気に歌いました。

現役時代に卓球部の応援歌がなかった淋しい思い出が甦り、ここにやっと実現されましたことを大変嬉しく思っております。

卓球部の歌

作詞片瀬洋悦(高2回卒)
作曲中本義弘(高1回卒)

一、 絶望の流れ清らかに
黄金波打つ大崎平野
たぎる血潮にためまぬ努力
奮え我が球と友も力の限り
あ、我等が古高卓球部

二、 朝に船形西に見て
夕べに栗駒北に見る
築きし伝統誇りつ、
鍛え我が球友力の限り
あ、我等が古高卓球部

三、 月かけ青く空中に
星を仰ぎて友と語らん
祇園寺おやじの魂(こころ)
受け継ぎて
燃えよ我が球友力の限り
あ、我等が古高卓球部

会員通信

古川の情報が知りたくて、「大崎タイムス」を送ってもらっています。(S07 杉下卯兵衛)

88歳になりましたが相変わらずに毎度お世話に相成り感謝致しております。(S14 岩城有信)

「蛭雪」45号ありがどう。乱の花雲...。柔道部の歌正調復活何よりです。同級生の玉水實氏も地下でなつかしく聴いていることでしょうか。春田・伊藤(祐)・鈴木(芳)・曾根・佐々木(恭)・氏家明朗各氏の熱意に感心しました。また、45号に西山静の訃報もあり因南歌と共に、たまに柔道部の歌も猛唱して下さい。只、西山は同級会や同窓会の出席は少なかつた。玉水さんの活躍、豪快な柔道は同級生の誇りでした。ありがとうございます。(S18 野村喜太郎)

一月に2回、長崎へ通っております。相変わらずに仕事を続けております。(S22 愛野記念病院院長 松本慶蔵)

80歳の太台に乗り、前向きに人生マラソンを走っています。いろんなことに楽しんで関わり、輪を拡げています。同窓会活動が充実しているのことに感じ入っております。(S24 三浦澄能)

職を離れて20数年、地域の神社の役員とか、以前から数十年前にわたる東京有備会の事務を相変わらずとめております。可能な範囲でこんなことをやっていると老化的防止になっているようです。(S27 氏家明朗)

相変わらず月に数回の出社と、日本語教室のボランティア教師を週3回しております。割合忙しく動いており、同期会が精一杯の出席です。(S27 菅原肇雄)

愚妻と二人でフランス・ブルゴーニュ・ワインを全国の御得意様にお届けしております。(S27 田口朝一)

柔道部応援歌が復活したので、上機嫌で毎日酒を楽しく飲んでます。(S27 春田祐輔)

昨年(21年)7月に脳動脈瘤の手術を行いました。その後順調に回復しております。今でも鎌倉彫の彫刻を続けていますが、塗り代が高くて大変です。(S28 早坂明久)

ミから下の声は急に息切れがひどくなり5秒位しか続きません。専門のところで診て貰うと、仮声帯といふものが張り出して、本来の声帯が閉じないのだそうです。何とかならないものか悩んでいます。(S30 高橋 廣)

昭和30年卒で4月2日に北区王子の飛鳥山公園に花見に行ってきた。集合時には雨も上がり、17名が参加して王子駅近くの北とびの17階からの眺望もすばらしく、東京スカイツリーも見えました。その後の宴も盛況に終わりました。(S30 平野 武)

私は、雨降り以外は、市営の芝の張ったゴルフ三昧で過ごしております。(市体協理事)。又、現在は10日に1度程度、孫娘(15歳、4歳)に会い楽しい一時を過ごし、いやされております。(S30 師山政夫)

暇がこんなにも良いものとは、はじめて知りました。72歳までフルタイムで働きました。最後迄実務の第一線で送れた事は幸でした。同窓生の皆様と違い、なつかしい故郷がない私は一日も早く高校を卒業する事を待ちかねていました。(S30 山中廣志)

健康の為に天気の良い日は朝1時間の散歩をして楽しんでおります。他に週2日間、卓球を土いじり等、好きな泥くさい毎日を送っております。(S30 横山 武)

5月の連休後の9日から5泊6日で、熱海温泉ホテルの湯治に行つて参りました。連休明けのせいか高齢者が多かったです。連休明けの3日お風呂に入りました。体調もよくなったような気が致します。朝食と3食付きです。料理も大変良く楽しい日々を過ごして参りました。同窓会を楽しみにして居ります。(S31 浅野 清)

妻の介護など家事に時間をとられています。当同窓会にはほとんど欠席しております。今回は工藤春彦氏のヴァイオリン演奏を聴きたくて(総会に)出席します。(S31 福原克彦)

近場の山行き(丹沢等)を楽しんでいます。30年以上続けているテニスで週1〜2回汗をかき、元気です。(S32 佐々木勝也)

民謡法涛会総務、郷土の民謡を唄う会幹事、江差道分会員として、日夜活動しております。社会復帰をめざしリハビリ中です。早期であれば苦痛も治療費もかかりません。検査を怖がらず体調に異常を感じたら、しっかりと様子が検査です。(S32 門馬俊二)

今の課題は、自分を含めた人間を見続けること。あらゆる事象の背後には人間が介在している。人間がわからなくては、一切の学問、事業も不明である。人間は途方もなく多様だ。(S34 青沼行雄)

ゴルフ第11回グランプリオープンに於いて総合優勝。5000人参加。(S34 渋谷 功)

6月で69歳と成りました。但し、加齢に伴い体調不全も多く、今年は寒暖の差が激しい為、風邪を引いて肺気腫持ちの小生には苦しい日が続きました。例年通り7月には鳴子に墓参りに行きますが、これが最後かも知れません。(S35 内田将夫)

東大駒場に「きこえのバリアフリー研究室」を開設しました。難聴と補聴器の相談も受けております。(S35 東京大学 大沼直紀)

本会報は先輩・同期会員の勤奮・人生哲学が判り得て感動のものです。今やカオス・ロハスの時代。カラス・雲雀・雉が啼き嵐が雪がちよびり見られ自然豊かな地が終の棲家。心技体を磨き乍ら半端な人生。地方にあって痴呆を認知しようの倫理観が未だ乏しい。雑草・雑木等「雑学の知見」習得・挑戦中。在京のエ・コン(空気・調整・訛り?)を求め、継続致し度い。(S36 菅泉 徹)

中国にて日本語教師をしています。(S36 高橋英昭)

70年代、本国よりも日本で人気を博した女性3人のヴォーカルグループ「スリーダイグリーズ」が来日出演するというので「横浜クエスト」まで出向きました。ステージは流石で本業本物に圧倒され、興奮さめやらぬま最新幹線の缶ビールに興味が良い乍ら帰路に着きました。(S36 長井 清)

平成22年3月30日で厚生労働省那覇検疫所を定年退官し、いわきのクリニックスと特別養護老人ホームで働いています。(S38 鷲岡会中坂クリニックス院長 阿部重人)

特に60代も中盤に入ると頭を使う以上、体をこまめに動かす努力をしないと体力の維持が難しいと感じる。加齢が進めば尚更である。出来れば体を随分使う努力をおしまない意識が大切と思う。(S38 今野丈夫)

古高同窓会(古川)に会費納入済。一本化を希望する。(S38 徳江重彦)

日本一おいしい米の町、微笑む豊かな町をどのようにモニタメントを通して作っていくか、思索しています。ご協力をお願いします。(S38 造形美術家 宮本信夫)

専任スタッフ・有資格
CALIS/ECインストラクター 4名
電子化ファイリング 5名
ファイリングデザイナー 2名
文書情報管理士 5名

情報処理のエキスパート 完成図書・デジタル化総合サポート
電子納品作成支援 おまかせください!
導入から成果品まで専任スタッフがきめ細かく対応しバックアップいたします。
代表取締役会長 早坂清吉 (昭和29年卒)
株式会社キーヨー http://www.keyo.co.jp E-mail:info@keyo.co.jp
本社 千103-0023 東京都中央区日本橋本町 4-1-6
☎ 03-3242-0191 FAX 03-3242-0167

心よりご冥福をお祈りいたします

倉澤健次郎氏 (昭22年卒)
遊佐 俊夫氏 (昭23年卒)
児玉 律実氏 (昭30年卒)
平成22年6月
平成22年1月15日
平成22年7月2日

編集後記

今年度上半期、在京年會費の納入額が激減(1.5面参照)しました。本会は夏の総会と1月の四校新年会を軸として活動しておりますが、それに併せて会報も年2回発行を継続しております。「本部同窓会費を納入するので、今回は『在京』には納めません」では、会報の年2回発行が困難になってきます。筆者のような首都圏永住者が多いと思いますが、年2回の「交流」は絶対に継続していきたいです。在京会員のご理解とご協力を切に願います。(曾根)

お知らせ
第18回 旧古川市内四校関東同窓会「新年の集い」
【日時】平成23年1月29日(土) 【交通案内】JR上野駅公園口から徒歩5分 【講演者紹介】
佐々木欽三氏 プロフィール
昭和3年生まれ、田尻出身。東北大学文学部卒、テレビ創成期のNHKに入局。40年にわたりテレビプロデューサーとして、「新日本紀行」「日本の素顔」「世界が心の旅」など、多くの番組を制作する。日本ペンクラブ会員、田尻会会長、首都圏大崎連絡協議会会長。
【会場】上野精養軒 電話 (3821-2181)
【会費】8,000円
上野動物園 精養軒 水取館 水動動物園 井天堂 不忍池 西郷像 上野駅